

大阪科学・大学記者クラブ 御中

2024年3月21日

大阪公立大学

## —日本の伝統的教育のメンタリティとは？— 禅仏教・哲学的「自然概念」が影響していることを明らかに

### <ポイント>

- ◇ 日本における教育・保育のメンタリティのルーツを明らかに
- ◇ 「自発的な」という意味の「みずから」と、「自然にそうなる」という意味の「おのずから」(\*) という二つの概念が含まれる自然の概念に注目
- ◇ 幼児教育と哲学研究の両巨塔を比較した初めての成果

### <概要>

日本における教育・保育の特徴として「見守り」を重視することが挙げられます。これは、子どもたちの「自主性・自発性」を尊重しているともいえます。

大阪公立大学大学院文学研究科の弘田 陽介教授は、教育・保育における自主性・自発性の考え方について、「日本の幼児教育の父」といわれる倉橋 惣三と、京都学派の代表的哲学者の西田 幾多郎を比較。日本の



遊具で遊ぶ子ども (©大阪公立大学)

教育・保育のメンタリティには、禅に見られるような自発性とそれを超える超越性を併せ持つ「自然概念」が潜在的に影響していることを明らかにしました。また、これまで直接交流がなかったと言われる倉橋・西田ともに、1930年代当時の日本の思想に通底する自然概念をもっていたことも示されました。

本研究成果は、2024年3月14日(木)、国際学術誌「History of Education」のオンライン速報版に掲載されました。

日本では、さまざまな領域で「自然さ」を求める傾向がありました。特に教育や保育では、子どもの活動を「見守り」ことができるのがよい教育者の条件として挙げられます。このような「自然さ」をよいものとするメンタリティはどこから来ているのでしょうか。ルソー主義といわれるような子どもの自発性を重視する思想は、近代になって日本に移入されるのですが、私自身はその根は前近代の日本の「学び」にあると思います、そのことを歴史的に探究しました。



弘田 陽介教授

## <研究の背景>

近年、日本の教育・保育の独自性を探る研究が多く行われています。それらは歴史および国際化の文脈の中で、日本の文化を担い、またその中で構成されてきた独自の教育および保育とはどのようなものであるかを問うものです。また、今日の日本の保育において、例えば、「見守る」という概念が強調されますが、これは日本国外の研究者からは、日本の特徴であると考えられています。この見守りは、積極的に子どもに働き掛けない教育であり、それにより自由、自発、想像力を育むのだといわれます。このような日本独自の教育・保育メンタリティの根が歴史的にどこにあるのかを問うことからこの研究は始まりました。

## <研究の内容>

本研究では、倉橋 惣三の理論は西洋近代の教育学・心理学に影響を受けながら、実はその背景に日本の前近代的なメンタリティが隠されているのではないかと考えました。日本の伝統的な自然概念には、自は「自ら」、然は「然る」が示すように、「特別の作為がなくとも自ずからそうなる」という意味が含みこまれています。またその含意は、近代化の中で見失われたのですが、しかし潜在的に日本の文化および教育・保育には残存しているというのが本研究の構図です。そのことを指摘するために、倉橋のテキストに加えて、その時代の代表的な哲学者である西田 幾多郎の自然論を取り上げました。この二者のテキストの分析から、日本の教育・保育のメンタリティには、禅に見られるような自発性とそれを超える超越性を併せ持つ自然概念が潜在的に影響していることを明らかにしました。

## <今後の展開>

倉橋や西田は西洋近代と日本の伝統的思想をつなぎ、また自然と日本文化に関する彼らの文章は、同時代の知識人や教育家に強い影響を与えました。彼らのような日本近代を代表する教育思想家や哲学者も、西洋近代を「鏡」にして日本の伝統を創出しようとしたことについても視野に入れ、研究を行っていきたいと思います。

## <資金情報>

本研究は、科学研究費補助金 基盤研究(B) (No. 21H00827) の支援を受けて実施されました。

## <用語解説>

※「みずから」は自己の有限性と個人性に基づく限りでの自発性を示し、「おのずから」はそれらを超えた超越性を指す。

## <掲載誌情報>

【発表雑誌】 History of Education

【論文名】 The concept of nature underlying early childhood education and care from pre-modern to contemporary Japan, via Sozo Kurahashi and Kitaro Nishida

【著者】 Yosuke Hirota

【掲載 URL】 <https://doi.org/10.1080/0046760X.2024.2304353>

### 【研究内容に関する問い合わせ先】

文学研究科 人間行動学専攻

教授 弘田 陽介

TEL : 06-6605-2388

E-mail : [y-hirota@omu.ac.jp](mailto:y-hirota@omu.ac.jp)

### 【報道に関する問い合わせ先】

担当 : 広報課 上野

TEL : 06-6605-3411

E-mail : [koho-list@ml.omu.ac.jp](mailto:koho-list@ml.omu.ac.jp)